

I. はじめに



芦屋市岩園町にある仲ノ池緑地は、近年の著しい都市化の進展により、自然的環境が年々減少し、身近な生き物が姿を消しつつある状況の中、1991（平成3）年度に「自然生態観察公園（アーバンエコロジーパーク）」として国の事業採択を受け、平成4年度に事業着手し、平成6年春に完成しました。仲ノ池緑地は、都市に自然を呼び戻し、身近に自然と触れ合える街づくりの拠点となることを目的とした公園です。

2013（平成25）年度、仲ノ池における護岸工事に際し、池の水が排水されたため、この機を利用し、仲ノ池の生物相を把握し、今後の維持管理方法を検討する際の基礎資料を収集するため、環境調査を実施しました。さらに、池の水を排水する機会を利用し、市民及び児童に対し、仲ノ池の環境を紹介する資料を作成し、仲ノ池の環境について学べる場としての環境学習会を開催しました。

本冊子は、本年の一連の調査結果及び活動内容を紹介するとともに、かつての仲ノ池からの変化、今後の方針などについて取りまとめたものです。

Ⅱ. 仲ノ池の概要

1. 歴史

仲ノ池は、通称「仲池」とも呼ばれ、芦屋市街地の東北部に位置しており、市内では奥池、奥山貯水池に次ぐ大きさの池です。仲ノ池がいつ頃つくられたのかは今のところはっきり分かりませんが、芦屋市史等によると、17世紀（1600年代）後半につくられたようです。

～ 仲ノ池年表 ～

- ◆1600年代後半に農業用のため池としてつくられた？
- ◆1750年の絵図には『仲ノ池』が描かれている
 - ※南に前池、北に奥池と全部で3つの池があった
- ◆1910年頃：まわりはほとんど林と田んぼだった
- ◆1930年頃：子供が泳ぎ、シジミがバケツ一杯採れた
- ◆1955年頃：甲南団地造成のために前池、奥池が埋められた
- ◆1980年代：外来種のおオクチバスが池に放流された
 - ※その他ブルーギル・タイワンドジョウ属・ウシガエル・アメリカザリガニ・ミシシippアカミミガメ
- ◆1993年：池の大修理が行われた
- ◆1995年：阪神大震災により池が大きく崩れ、修理された
 - ※ニシキゴイの放流
- ◆2013年：漏水対策工事を機に、環境調査が行われ、環境学習会が開催された
 - ※アリゲーターガー、スポッテッドガー、ソウギョなど新たな外来魚と、一時は確認されなかったドブガイ、イシガイ、フナ類などを再び確認

2. 大きさ、立地

仲ノ池は、南北最大幅約130m余、東西最大幅約80m、池面積8,393m²で、市街地の中にある池としてはかなり大きなものといえます。

水深については、満水時で最大が約3.2m、池の中央から南にかけて最も深くなっており、池の中央から北の岸側に向かって緩やかに浅くなっています。さらに池の西側より東側の石積みの方が深い傾向があります。

池全体は、周囲が住宅地となっており、南側、東側、北側を市道に囲まれ、西側は宅地となっています。池の三方は、緑地として整備され、市民の憩いの場として利用されています。

